

元山年弘氏を偲ぶ

立教大学経営学部教授 日向野幹也

元山年弘氏は2008年4月に立教大学経営学部にて、ビジネス・リーダーシップ・プログラム（BLP）を主に担当する助教として着任し、2009年7月15日に永眠されるまで、15カ月あまり勤務されました。ここではまず元山氏の学部教育への貢献についてふれたいと思います。2006年4月に開講されたBLPでは、学部教育としては日本で初めて学年・学科で必修のリーダーシップ開発科目群を設けており、リーダーシップ開発やキャリア形成支援を専門とする若い教員の着任が待望されていました。そのような事情があったうえに、元山氏の熱心さのおかげで、短い間とはいえ氏のBLPへの貢献は多大でした。

まず、プロジェクト型学習に組織的な振り返りを導入することを提案してくれました。特に、プロジェクトを一緒におこなってきたチームメイトの間でおこなう相互フィードバックと、その翌週に自分の受けたフィードバックを参考にして自分の改善目標をたてて、それをチームやクラスと共有するというフィードバックと振り返りの組み合わせは斬新でした。また、こうしたフィードバックや改善目標を含め、学生の全ての提出物やフィードバックをデジタル化して保存し、学生本人と教員がいつでも閲覧できるようにしておくeポートフォリオも元山氏が最初に提案してくれました。現在では元山さんの提案をさらに発展させて、大学卒業後のキャリア形成支援にも役立ち、BlackboardやMoodleのようなLearning Management Systemと接合するような機能拡張も検討されています。

こうした企画面とともに、元山氏は実際に授業を担当し学生を指導することにも熱心で優れた業績を残してくれました。病状が急速に悪化した日のわずか三日前の日付で、次回の授業の共通スライドについての注意書きを、療養中の自宅から、アシスタントや同僚教員に対して深夜にメールで送ってきてくれた記録が残っています。元山氏のクラスの学生は元山研究室にしばしば夜遅くまでhang aroundしており、薫陶をうけた優秀な学生が数多く育ち、学部とBLPの発展を支えています。

元山氏は、研究面においても大学院生の頃から将来を嘱望される研究者でした。2009年6月には、研究論文「管理職への移行における諸問題」で日本経営教育学会山城賞奨励賞を受賞しました。

このように研究面でも教育面でも期待されていた元山氏を失ったことは、ご家族・ご親戚・ご友人・神戸大学金井研究室の皆さんにはもちろんのこと、学界と立教大学にとって大きな喪失でした。7月15日の一周忌を迎えるにあたり、元山氏のリーダーシップ開発に関するさまざまな構想を思い起こし、志を新たにす次第です。